

令和 2 年度

社会福祉法人 若楠

事業報告書

目 次

本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3～ 6

- I 法人の運営概要
- II 理事会・評議員会及び監事の監査状況
- III 職員研修・福利厚生事業
- IV 入札を伴う契約及び随意契約
- V その他法人主催行事

若楠療育園・・・・・・・・・・・・・・・・ p 7～20

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 地域社会との交流
- V 総務

若楠児童発達支援センター・・・・・・・・ p 21～24

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況

若木園・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 25～33

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 保健衛生
- V 食事班
- VI 地域支援
- VII 地域社会との交流
- VIII 総務

青葉園・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 34～40

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 生産型活動における生産品等、販売実績
- V 医務
- VI リハビリテーション
- VII 栄養課
- VIII 総務課
- IX 障害福祉サービス事業及びその他社会福祉事業の実施状況
- X 地域社会との交流

もしもしネット・・・・・・・・・・・・・・・・ p 41～44

- I 障害者就業・生活支援センター事業の実施
- II 研修の受講
- III その他
- IV 総括

どんぐり村・・・・・・・・・・・・・・・・ p 45～49

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- VI 地域社会との交流
- V 総務

グリーンファーム山浦・・・・・・・・・・ p 50～58

- I 運営の概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 地域社会との交流
- V 総務

本 部

I 法人の運営概要

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大が治まらない中、法人全体で「ピンチをチャンスへ」を合言葉に、試行錯誤した一年であった。そのような状況の中、法人理念のもと、利用者・保護者・職員の満足度を高める運営の在り方を模索し、社会福祉法人が担ってきた役割を実践することができた。また、仕事の要は人材であることから、定年後の再雇用制度を見直し、高年齢者の雇用の安定を図るとともに、法人理念を根幹とする人材育成・確保と職員採用、並びに働きやすい職場づくりの推奨及びメンタルヘルス室の活用促進を行い、離職防止・健康増進に取り組んだ。

法人全体として、福祉を取り巻く環境が変化する中で、「法人若楠の基本理念」からぶれることなく、地域に貢献する笑顔溢れる施設として、健全な運営・サービスの向上に努めることができた。

II 理事会・評議員会及び監事の監査状況

1 理事会の開催

第1回 理事会

日時 令和2年5月31日（金） 午後1時00分より

場所 若楠療育園 会議室

理事出席者 6/9名 監事出席者 1/2名

議題 第一号議案 令和元年度事業報告並びに決算

第二号議案 諸規則・規程の改正

第三号議案 定年延長について

報告事項 令和元年度障害者支援施設指導監査（書面）改善報告書
「若木園」「青葉園」

その他 定時評議員会の日程について

第2回 理事会

日時 令和2年12月4日（金）

書面決議

議題 第一号議案 令和2年度予算執行状況

第二号議案 令和2年度補正予算案

第三号議案 諸規則・規程の改正

第四号議案 定年延長について（再）

第五号議案 施設設備等整備事業

報告事項 ・令和2年度指定障害福祉サービス事業者等実地指導改善報告書
「どんぐり村」
・令和2年度指定障害福祉サービス事業者等実地指導結果通知書
「青葉園」

第3回 理事会

日時 令和3年3月5日（金） 午後3時00分より

場所 若楠療育園 プレイホール

理事出席者 8/9名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 令和2年度予算執行状況
第二号議案 令和2年度補正予算案
第三号議案 令和3年度事業計画案
第四号議案 令和3年度予算案
第五号議案 諸規程の改正
第六号議案 施設設備等整備事業
第七号議案 評議員選任・解任委員会への評議員候補者の推薦について
報告事項 ・令和2年度指定障害福祉サービス事業者等実地指導（書面）改善報告書「若木園」
・令和2年度指定特定相談支援事業所及び指定障害児相談支援事業の実地指導結果について「若楠療育園」
・災害救助犬訓練施設の設置について「どんぐり」

2 評議員会の開催

定時評議員会

日時 令和2年6月12日（金） 午後3時00分より

場所 若楠療育園 プレイホール

評議員出席者 8/10名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 令和元年度事業報告並びに決算
第二号議案 諸規則・規程の改正

3 監事の監査

第1回監査（令和2年5月28日）

令和元年度決算内容及び各施設の諸帳簿、財務諸表等の監査（令和元年度決算最終監査）
法人全体の令和元年度における預金通帳、諸帳簿、入園者の処遇及び預り金等の監査

Ⅲ 職員研修・福利厚生事業

1 職員研修

新採用職員研修

日時 令和2年4月1日（水）、2日（木） 両日とも午前8時30分から午後2時00分まで

場所 若楠療育園プレイホール

内容 職員の心得・法人理念・福祉制度・理念の実践演習等

1年経過者職員研修

日時 令和2年4月24日（金） 午後1時から午後3時まで

場所 若楠療育園プレイホール

内容 法人理念、職員の心得、先輩からのメッセージ、自己目標の発表

主任等研修

日 時 令和2年7月31日（金） 午後1時20分から午後3時30分まで
場 所 若楠療育園プレイホール
内 容 理事長講話、部長講義「ピンチの中でのリーダーシップとは」

課長等研修

日 時 令和2年9月4日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで
場 所 若楠療育園プレイホール
内 容 理事長講話、外部講師による講義「組織における課長職の役割」

働き方研修

日 時 令和2年10月30日（金） 午後2時から午後5時まで
場 所 若楠療育園プレイホール
内 容 講義「社会福祉の仕事に携わるということ」、グループワーク

2 運営

令和2年度中間業績報告会

日 時 令和2年10月30日（金） 午後2時から午後5時まで
場 所 若楠療育園プレイホール
内 容 法人若楠の運営方針・各施設の令和2年度事業中間報告

令和3年度事業計画説明会

日 時 令和3年2月26日（金） 午後2時から午後5時15分まで
場 所 若楠療育園プレイホール
内 容 法人若楠の運営方針・各施設の令和3年度事業計画発表

3 福利厚生

職員健康診断

期 日 令和2年9月11日（金）、9月14日（月）～18日（水）
検査項目 35歳以上 生活習慣病健診 35歳未満 定期健診
対 象 者 495名（受診者390名・他病院105名）

夜勤者健康診断

期 日 令和3年3月15日（月）、3月17日（水）、3月19日（金）
検査項目 一般健診
対 象 者 夜勤者161名（若楠療育園54名・若木園32名・青葉園75名）

コーワパークホテル湯布院倶楽部利用券発行 利用促進の案内（随時）及び利用券の配布

4 メンタルヘルス室

人材確保のためのフォローの一環として、周知と利用促進を重点的に行った。

(1) 相談業務

<月別職員メンタルヘルス相談数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	14	38	61	36	31	40	18	24	34	46	26	38	406

※月平均利用者数 33.8人

※新規採用者面談 28名(6月～9月)

※高ストレス者面談 2名

<メンタルヘルス相談延べ人数推移>

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
利用者数	79	38	92	77	254	406

※各施設担当者と打合せのうえ実施。積極的な利用があり、大きく増加した。

(2) 研修会

<法人全体>

- ・メンタルヘルス講習会 新人研修 「オリエンテーション」
- ・メンタルヘルス講習会 新採後6ヶ月研修 「働き方研修」

<各施設>

- ・若楠療育園 課長研修「職場復帰支援」、全体研修「COVID-19対応メンタルヘルス」
ナース会議「アンガーマネジメント」、中途採用者「メンタル研修」
- ・青葉園 安全衛生委員会研修「COVID-19対応メンタルヘルス」
- ・若木園 主任、サブリーダー研修「ディスカッション」
課長研修「ディスカッション」
メンタル研修会「みんなのためにできること」
- ・どんぐり村 全体研修「COVID-19対応メンタルヘルス」
全体研修「事例検討 障害に合わせた合理的配慮」
全体研修「事例検討 利用者のよりよい理解のために」
メンタル研修会「楽しく働く」

(3) 職場復帰支援

- ・長期休職者のうち4名に実施。

IV 入札を伴う契約及び随意契約

入札を伴う契約・・・該当なし 随意契約・・・該当あり

V その他法人主催行事

令和2年4月1日(水) 新年度会(入社式)

令和2年5月1日(金) 第43回創立記念式典(永年勤続者表彰)

令和3年1月4日(月) 新年挨拶の会

若楠療育園

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

若楠療育園は社会福祉法人若楠の基本理念のもと、各事業における支援の質の向上を図りながら、コロナ禍での感染予防対策を徹底した上で、できる限り入園・在宅利用者のニーズに応えるよう努めた。

（1）感染予防対策の強化

新型コロナウイルス感染予防のための対策をすべての部署で徹底し、園内で感染者が発生した場合に対しても備えた。

（2）適正な人員配置を維持し、各種個別支援計画のもと、快適で安全なサービスを実施

適正な人員配置を保ちながら、利用者一人ひとりの状況に応じた良質かつ安心していただけるサービスの提供に努めた。

（3）短期入所事業の受入れの減少

短期入所事業では、引き続き医療的ケア児等在宅支援事業を受託したが、新型コロナウイルスの状況を見極めながら利用を制限したため、受入れ数は大幅に減少した。

（4）外来診療数

乳児健診、小児予防接種の件数は例年と変わらなかったが、新型コロナウイルスの影響で、受診者数は減少した。

II 利用者の状況

1 年齢

（1）療養介護・医療型障害児入所（入所）

年齢	20歳未満	20～39歳	40～59歳	60歳～	合計
男	3	13	7	15	38
女	2	10	15	15	42

※措置児(20歳未満)5名含む

（2）生活介護（通所）

年齢	20歳未満	20～39歳	40～59歳	60歳～	合計
男	0	16	2	0	18
女	1	8	4	0	13

(3) 児童発達支援（重心）

年齢	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
男	0	1	0	1	0	1	3
女	0	0	0	0	0	0	0

(4) 放課後等デイサービス（重心）

年齢	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	合計
男	1	2	0	0	3	0	6
女	0	2	1	0	0	0	3

Ⅲ 事業の実施状況

1 医療部

(1) 医療課（外来）

①外来受診者総数（表1）

受診者総数は 19,757 人から 15,849 と 3,908 人減少した（上半期-2,893 人、下半期：-1,015 人）。月平均受診者は 1,325 人（昨年度比-328 人）。

法人別の受診数では青葉園利用者の減少幅が大きかった（昨年度比-293 人）。

※受診数の減少は新型コロナウイルス感染拡大に伴うものである。

②小児発達外来（心理検査、リハビリ、定期フォローなど）の受診状況（表2）

新患は 217 人で昨年度比-60 人であった。再診は 9,369 人でリハビリの一時中止の影響が大きく、減少数は昨年度比-1,821 人であった。診療科別では発達外来受診者が最も多かったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴うリハビリの一時中止の影響で、受診総数は 9,586 人と昨年度比-1,881 人であった。

③その他診療科の受診状況（表2）

発達外来以外の診療科でも新型コロナウイルス感染拡大の影響により受診者数は減少した。

- ・小児科一般診療は昨年度比-715 人。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、受診者の制限を行ったことと、感染予防対策の徹底により感染症そのものが減少している影響と思われる。
- ・精神科（青葉園、若木園など）は昨年度比-199 人の減少で、感染症の減少と受診控の影響と思われる。

④保険外診療の受診状況（表3）

- ・乳児健診、小児予防接種は、新型コロナウイルス感染拡大の影響は受けなかった。
- ・インフルエンザ予防接種は例年と同程度であった。

※一般健診は法人他施設利用者（入園者含）、新採健診、職員健診、保育園入園前健診の合計

＜表 1．外来受診者総数＞

	青葉園	若木園	職員	一般外来	合計
元年度	2,421	1,403	787	15,146	19,757
2 年度	2,128	1,366	487	11,868	15,849

＜表 2．診療科別外来受診状況＞

	小児科	発達外来	精神科	内科	皮膚科	リハ科	合計
元年度	1,926	11,467	3,646	306	189	62	17,596
2 年度	1,211	9,586	3,447	250	305	78	14,877

＜表 3．保険外診療＞

	一般健診	乳児健診	予防接種	インフル予防接種
元年度	384	58	1,142	1,083
2 年度	370	74	1,084	1,127

（２）リハビリテーション課

①安全で継続しうるリハビリテーションサービスの提供

- ・施設基準に基づいた入園者、在宅利用者への理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）を実施した。
- ・感染対策のため、「入園リハビリ」「外来リハビリ」「他部署協力」の３つの業務分担体制を構築した。

②教育機関、行政機関へのニーズ対応

- ・県内在住の希望者、通所事業所、教育機関（学校、幼稚園、保育園）に対して「外来相談」「訪問相談」「講師派遣」を行った。

③法人内施設ニーズへの対応

- ・若木園利用者に対して定期時間枠を設け、理学療法（PT）を中心に行い、摂食評価ニーズについては言語聴覚療法（ST）が対応した。

④専門性の研鑽

- ・担当分野を明確化。研修参加は出来なかったものの研鑽に努めた。
 （PT）「疼痛」「呼吸」「小児運動発達」
 （OT）「日常生活動作」「福祉用具」「発達障害の検査」
 （ST）「摂食嚥下」「ソーシャルスキル」

(3) 歯科

①診療実績

- ・実患者数(3,638名)とのべ患者数(3,993名)は、それぞれ前年度比100.1%、95.8%であった
- ・他施設からの紹介患者は52名であった。
- ・全身麻酔は56名に実施した。

②保険収入

- ・前年度比108.7%(4,251,147点)であった。

③研究活動・学会発表等

《歯科医師》

- ・第37回日本障害者歯科学会学術大会において症例発表(オンライン)を行った。
- ・第31回老年歯科医学会において症例発表(オンライン)を行った。

《歯科衛生士》

- ・なし

④地域への貢献、その他

- ・歯科衛生士学校への講師として歯科医師1名を派遣した。
(3校：九州医療専門学校・佐賀歯科衛生専門学校・久留米歯科衛生専門学校)
- ・佐賀県歯科医師会主催「障害者歯科地域協力医研修会」に講師として歯科医師1名、歯科衛生士1名がオンライン講演を行った。
- ・徳島県歯科医師会主催「障がい者(児)歯科医療対応力向上研修会」に講師として歯科医師1名がオンライン講演を行った。

<令和2年 歯科受診者状況>

(のべ患者数)

	若楠療育園	青葉園	若木園	一般外来	職員	合計
R1年度	739名	1,206名	269名	1,911名	44名	4,169名
R2年度	663名	1,284名	167名	1,814名	65名	3,993名
前年比	89.7%	106.5%	62.1%	94.9%	158.5%	95.8%

<令和2年 他施設からの紹介の状況>

	開業歯科 医院	佐賀整肢 学園・歯科	久留米大学 病院 歯科口腔医 療センター	聖マリア 病院・歯科	その他	合計
R1年度	27名	3名	3名	2名	2名	36名
R2年度	22名	17名	4名	1名	8名	52名

(4) 栄養課

①栄養管理・入園者の食形態

<食種別人数の変化>

令和2年4月 昼食 入所 79名		令和3年3月 昼食 入所 80名	
常食 (経管栄養併用含)	49 (4)	常食 (糖質に配慮した食含) (経管栄養併用含)	51 (1) (6)
幼児食	1	幼児食	2
減塩食	1	減塩食	0
糖尿病食	1	糖尿病食	0
脂質異常食(減1含)	2	脂質異常食	1
痔臓食	1	痔臓食	1
消化食	0	消化食	0
胃ろうペースト食 (離乳食含)	2 (1)	胃ろうペースト食	2
経管栄養	18	経管栄養 (乳児ミルク含)	18 (1)
経管栄養(昼なし)	2	経管栄養(昼なし)	4
絶食	2	絶食	1

<食形態別人数の変化>

	常食	荒刻食	刻み食	ソフト食	ミキサー食	胃ろう ペースト食
令和2年 4月 昼	13	5	20	10	7	2
令和3年 3月 昼	14	5	18	10	9	2

<地域支援・児童発達の昼食数>

事業名	月平均食数
生活介護	162
児童発達	173(発達159、重心14)
託児所	219

事業名	年間延べ数
日中一時	朝 8 昼 100 夕 24
短期入所	朝 68 昼 119 夕 70

（５）薬局

- ・外来の調剤数は減少。小児神経系医薬品（コンサータ等）の処方 は年々増加している。
今年度は新型コロナウイルス感染対策によるインフルエンザ等の感染症の罹患者減少、
園の感染予防対策による利用制限等により、受診者数が減ったためと考えられる。
- ・前年度に引き続き、オーソライズド・ジェネリック（AG）が存在する医薬品について
は、AG へ移行中。
- ・棚卸しシステムを導入したので、棚卸し業務の時短に繋がった。

＜各施設の調剤数＞

	若楠療育園	青葉園	若木園	グループホーム	一般外来	合計
平成 30 年度	14,607	10,071	5,340	914	8,947	39,879
令和 元 年度	13,830	10,710	5,130	1,032	9,100	39,802
令和 2 年度	13,272	10,329	5,148	1,101	7,643	37,493

（６）放射線

- ・手の拘縮をきたしている入園者が多くなり、撮影不可能となるケースが増加している。
また、入所者の胃ろうチューブ挿入による管理も増加している。

＜エックス線撮影件数＞

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
851 件	802 件	773 件	686 件	680 件

＜令和 2 年度 X線検査総数＞

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
ポータブル ・ 撮影室	胸部	43	137	97	48	16	12	13	10	6	4	21	22	429
	腹部	2	2		1		2	1	4		1	2	1	16
	躯幹骨	3		1			4		7		4	2	2	23
	四肢骨	3	2	2	2	2	2	2		2	9			26
	全脊椎	1	26	1			3	1		1			1	34
	PEG・MT 交換	9	4	11	11	5	9	10	8	9	7	10	10	103
	骨塩定量			1	4	8	5	2			3	5	5	33
	パノラマ			1		2		1	2	1			3	10
	小 計	61	171	114	66	33	37	30	31	19	28	40	44	674
透視室	PEG・MT 交換	2		1						1	1	1		6
	総 計	63	171	115	66	33	37	30	31	20	29	41	44	680

2 入所支援部

(1) 看護課

① 10対1看護体制の継続と看護・介護サービスの向上

- ・10対1看護体制は継続することができた。新採看護師2名が入職、プリセプター教育を実施し、園内研究発表へとつなげることができた。
看護・介護実習は受け入れを中止。オンラインを活用し、医療・看護面の情報を発信した。
- ・入園者1名が重症化により、看取りを行った。新規入園者は同法人施設から重症化で1名、措置児童1名で昨年と同様に関係事業所と連携を図った。
- ・研修は主にオンライン研修に参加。また、新型コロナウイルス対策として、感染予防対策の基本的考え方と実際に看護師3名参加し、会議を通して情報発信できた。
- ・看護記録委員会で適時に記録関係の見直しを行い、データ管理に繋がっている。

② 短期入所事業と居宅系サービスの充実

- ・登録者数 51 名 ・新規契約者 1 名（児童） ・年齢層 9 歳～51 歳
- ・年間延べ利用人数 82 名（昨年度比 344 名減）
- ・1日あたり平均利用者数 0.43 名 ・緊急受け入れ 2 名（4 件）
- ・重大アクシデント 1 件 ・苦情 1 件
- ・新型コロナウイルス感染対策としての利用中止や制限は継続中だが、必要に応じて利用日数の制限を解除し、地域支援課との連携を図りつつ対応した。
- ・ベッド柵を立てていたが、夜勤帯で転落事故が発生。短期入所中、ベッド利用者の見直しを実施し、事故再発防止に努めた。
- ・職員が障害特性を理解した対応ができていなかったとの苦情を受け、ショート受け入れ時、保護者が来園時持参した資料やアセスメントシート等に必ず目を通し、障害特性や必要なケアについて理解を深めておくように注意喚起し、福祉サービスの質の向上を目指した。

③ 感染防止・医療安全対策の強化

- ・医療安全として安心安全な支援を目指し、報告書の電子化を9月からの仮運用期間を経て10月より開始した。その結果として、インシデント報告から、場面分類の結果（介護・支援 29%、食事・栄養 15%、薬剤 10%、リハビリ訓練 9%）や、インシデントの要因（確認を怠った 49%、観察を怠った 22%）など、電子化・数値化して具体的な対策方法を見出すことが可能になった。
- ・感染対策では、令和2年4月に臨時の委員会を開き新型コロナウイルス感染対策の周知を図った。8月に職員1名罹患し、保健所の指示を仰ぎ、接触者全員陰性で入園者支援に影響はなかった。年間を通して新型コロナウイルス対策、職員の外出・外泊等の届け出を作成するなど、状況の把握に努めた。
- ・手指消毒指標を作り、各部署のアルコール使用量を数値化した。また、ホルダーを増やして手指衛生の意識づけをした。このことはノロウイルス・インフルエンザ予防にも効果があったと言える。

④ユニットケアの充実を図る

- ・面会制限・中止、ボランティアの方との関わりも中止等いろいろな活動制限中、新型コロナウイルス感染を考慮しながら、入園者個々の医療度に応じた支援を行った。
- ・家族の方との関わりも少ない状況だったが、5月からオンラインを導入し希望される家族には時間の制約はあるが対応した。園外活動は自粛したが、園内でゆっくり関われる活動中心に支援を行った。

(2) 生活支援課

①個別支援計画の適正な運営と日中活動の充実

- ・アセスメントを重視し、入園者の状態やニーズを把握した中で個別性のある支援計画の作成、実施ができた。モニタリング書類の様式を変更し、家族に分かりやすく活動の様子を情報提供できるようになった。
- ・短時間契約職員の導入と定着により、個別活動の充実が図れた。行事等の中止によりユニット入園者に寄り添う時間が増加し、丁寧な関わりを持つことができた。
- ・子どもクラブにおいて体験活動や成長発達を促す関わりを強化し、療育の質の向上に努めた。専門性を駆使し、職員の能力、意欲の向上を図ることができた。

②家族、関係機関等との連携

- ・コロナの感染状況で家族の面会方法を検討し、対面・窓越し・オンライン面会の環境を整備した。年2回予定の保護者面談会の代替として、家族に電話での近況報告や聞き取りを行い、家族との関係維持に努めた。
- ・計画相談事業所と連携強化に努め、情報の共有を図ることができた。
- ・措置入所5名、4ヶ所の児童相談所と連携をとった。密に情報交換を行い、迅速な対応に努めた。
- ・ボランティアとの関係維持、スムーズな活動再開ができるよう定期的に広報誌などを送付し繋がりを保った。

③業務改善による効率化

- ・相次いで行事を中止したが、感染対策を講じながら工夫を凝らした療育活動を感染状況に応じて展開できた。
- ・正規職員と短時間契約職員の業務の分担化を行い、効率よく業務に就くことができた。

④人材育成と働きやすい環境づくり

- ・行事や実習生受け入れなどの中止で行事運営や学生指導が無く、教育する機会を得られなかった。行事運営経験の浅い職員が増えている。
- ・新たに保育学生向けにリモート見学実習を実行した。実際の現場を体験せずに医療・福祉施設の魅力を発信できるよう試行錯誤で取り組んだ。

<年間行事>

月	行 事	月	行 事
4 月	花祭り（8日） 中原特別支援学校入学を祝う会 （8日）	10 月	療育を楽しむ会 【ハロウィンパーティ】（28日）
6 月	総合防災訓練（24日）	12 月	若楠療育園クリスマス会（9日） もちつき会（23日）
8 月	第1生活棟夏祭り（27日） 第2生活棟夏祭り（28日）	2 月	園内研究発表会（5日）
9 月	夜間防災訓練（11日）	3 月	中原特別支援学校卒業式（11日）

※季節・小行事、ユニット行事はユニット単位で行った。

3 地域支援部

（1）地域支援課

本年度は、コロナ禍における利用者の安全を第一に優先する中で「1ヵ月程度のサービス停止」「利用回数制限」を実施。一方で在宅生活へのケア、サービス再開後の感染予防策の見直しに取り組んだ。

①安定的な事業運営

- ・適正な人員配置基準を維持し、利用者一人ひとりのニーズに応じた良質かつ安心なサービスの提供に努めた。

②障害の重度化・高齢化・医療的ケア児等への対応と支援の質の向上

- ・超重症児者、準超重症児者の利用増加に対して、適切な医療的ケアの提供に努めた。
- ・日中活動の充実に努め、個別支援計画に沿った支援の提供に努めた。

③業務の効率化及び明確化

- ・事務業務の統合を図り、課内での連携及び相談体制の強化を行った。

④地域福祉サービスの拡充

- ・鳥栖市内小学校への訪問看護事業を継続し、地域ニーズに対応できる支援体制の確立を図った。

<各事業利用者数推移>

・生活介護事業

	登録者数	実施日数	利用延人数	1日平均利用者数
令和元年度	32	340	3,691	10.9
令和2年度	32	267	2,217	8.3

・多機能型（重心）児童発達支援・放課後等デイサービス

	登録者数	実施日数	利用延人数	1日平均利用児数
元年度	14（1）	247	669（6）	2.7
2年度	11	203	367	1.8

・日中一時支援事業

	利用契約者	利用延件数	1日平均利用件数
元年度	51	1,417	3.9
2年度	51	778	2.1

・居宅介護等事業

	利用契約者	利用延件数	1日平均利用件数
元年度	17	1,877	5.1
2年度	16	1,549	4.2

・福祉有償運送サービス

	利用契約者	サービス延件数
元年度	13	1,012
2年度	13	124

（2）総合相談室

①計画相談事業

	障害者	障害児	計
元年度	838	472	1,310
2年度	986	417	1,403

- ・重症心身障害児者との新規利用契約を行う。
- ・適切に計画相談を遂行するため一部利用者の移管を進める。

②佐賀県障害児等療育支援事業

	外来相談	訪問相談	施設職員等支援	療育機関支援
元年度	1,402	258	156	21
2年度	1,261	176	125	18

- ・令和元年度県予算上限額 861 万、令和 2 年度県予算上限額 886 万円。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響から全体的に減少する。

③認定調査

元 年度	76
2 年度	61

④鳥栖市巡回支援専門員整備事業

元 年度	231
2 年度	240

・令和元年度鳥栖市予算上限額 280 万、令和 2 年度鳥栖市予算上限額 288 万。

4 事務部

(1) 事業種別に応じた適正な事務処理及び情報発信

毎月の各種事業の実績及び会計データの分析と職員の加算取得の配置基準等も月ごとに検証した。

(2) 業務の効率化

委員会・会議の時間短縮や、書類作成の簡素化、薬局の棚卸システム導入。

(3) 良好な職場環境の提供

①衛生委員会を中心に、メンタルヘルス室と連携しながら良好な環境づくりに努めた。

②計画的な年次有給休暇取得を呼び掛けた。

③職場におけるハラスメント防止のための研修会や、管理職の勉強会を行った。

IV 地域社会との交流

1 実習生の受け入れ

<令和二年度 受入状況>

実習の種類	実 習 校
看護師	聖マリア学院大学（リモート）
臨床心理士	福岡女学院大学（リモート）
見学実習	中村学園大学短期大学部（リモート）

2 ボランティア

(1) ボランティア

<ボランティア数と状況>

ボランティア延べ総数	22名（月平均1.8名）
ボランティア内容	・裁縫 ・絵手紙 ・空調、配電の点検整備

3 交流活動

(1) 中原特別支援学校 交流行事への参加

・体育祭 ・卒業式

V 総務

1 職員の状況

<職員数（年度末）>

	医師 (常勤)	医師 (非常勤)	歯科医師 (常勤)		薬剤師	診療放射線技師	歯科衛生士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	相談支援員
元年度	4	6	1	3	4	2	6	7	9	11	3	7
2年度	4	6	1	2	5	2	6	10	8	8	3	12
増 減	0	0	0	-1	1	0	0	3	-1	-3	0	5

	看護師	准看護師	ケアワーカー	生活支援員	管理栄養士	調理師(員)	事務員	環境整備員・送迎職員	施設管理員	ホームヘルパー	子育て支援・託児所職員	合 計
元年度	47	21	19	45	2	15	12	7	1	4	11	247
2年度	46	17	22	38	3	16	11	7	1	4	18	250
増 減	-1	-4	3	-7	1	1	-1	0	0	0	7	3

※臨時職員を含む。生活支援員には、介護福祉士・社会福祉士・保育士の資格保有者を含む

2 職員研修

(1) 園内研修

テ ー マ	期日	講 師
メンタルヘルスについて COVID-19 対応	7/29	木村佐宜子・衛生委員会
利用者の食事形態について	9/30	栄養課職員・感染褥瘡対策委員会
他人事ではない防災	11/4	渡部雄一 野下貴司 防火管理委員会
新型コロナウイルス対策について (動画視聴)	11/17	金子ゆかり様・感染防止委員会
ハラスメント防止研修	12/2	真崎康子様・衛生委員会
新採職員 OJT 研修	4 月	若楠療育園職員

(2) 園内研究発表会

発表演題	発 表 者
MCT オイルを用いたミキサー・ソフト食の検討	栄養課 井手口千恵
乳児の手指間皮膚炎への対応	第1生活棟 宮原麻子
耳介褥瘡予防枕の検討	第2生活棟 佐野亜由美 坂本美穂
鉛筆やはさみの操作能力が箸操作能力に与える影響	リハビリテーション課 内田千陽
意思表示のバリエーションを増やす関わり	地域支援課 安部彩未 青山千春

3 防犯防災管理

- (1) 毎月1回、職員の防災意識の向上、役割分担体制の把握、災害時の行動力を培うために、通報・初期消火・避難誘導の防災訓練、さらに災害時の朝食提供訓練も同時に行った。新型コロナウイルス感染防止のため集合訓練ではなく各課単位で訓練を実施した。
- (2) 例年9月に今町・弥生が丘・柚比地区の方の参加協力のもと実施している夜間防災訓練（夜間非常時の職員の行動、緊急連絡網の稼働等訓練）については、新型コロナウイルス感染防止のため職員のみで緊急連絡の訓練を行った。
- (3) 消防設備定期検査(年2回)、自主点検（随時）を実施。
- (4) 自動火災報知設備および非常放送設備を更新した。
- (5) 有事を想定しての様々な災害シミュレーション訓練の実施。
- (6) 継続して防犯対策を実施。

4 施設整備及び環境の整備状況

- ・パソコン9台（入替8・新規1）
- ・歯科診療用バキューム
- ・歯科診療用ダイオードレーザ器具
- ・電動介護リフト
- ・オゾン除菌脱臭機
- ・検査顕微鏡
- ・遠赤外線輻射式暖房機更新
- ・女子更衣室換気扇整備
- ・UTM 装置更新
- ・非接触性外線体温センサー2台
- ・乗用車（アクア）
- ・パッケージ型消火設備更新
- ・園内照明のLED化
- ・外部デッキ修繕
- ・園内ガス給湯器更新
- ・自動火災報知設備更新
- ・非常放送設備更新

5 寄付

ご 芳 名	
嬉野 政則 様	古賀 圭介 様
横尾 恵子 様	田脇 裕子 様
内田 様	JA 佐賀県女性組織協議会 様
宮園 和子 様	三基商事株式会社 様
宮園 邦江 様	ポアソン 様
エヌ・アイ・エスソリューションズ株式会社 様	

若楠児童発達支援センター

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

若楠児童発達支援センターは、社会福祉法人若楠の基本理念のもと、身近な地域の障がい児支援の拠点施設として、障がいのあるなしにかかわらず様々な子ども達のニーズに合わせた支援に努めた。新たにどんぐりセンター若楠の出張ひろばを開設し、より身近な子育て支援の場を広げるとともに子どもの健やかな育ちと安心した子育てができる地域づくりに取り組んだ。新型コロナウイルス感染禍には、施設の感染防止策を厳守し、安全安心して利用できるセンターを目指した。

（1）地域の障がい児や家族への支援

若楠児童発達支援センター事業を通して、年齢・発達・特性などを考慮し、面談会やお迎えの際のご家族との情報交換等を密に行うことにより、利用児一人ひとりにあった支援に努めた。

（2）地域の障がい児を預かる施設への支援とネットワーク強化の推進

佐賀県障害児等療育支援事業や保育所等訪問事業等を通して、幼保育園・学校・施設等の要請に応じて、受入れ、出張対応を行った。また、県内の療育機関や自立支援協議会等のネットワーク会議にも積極的に参加し、連携の強化に努めた。

（3）障がい児・健常児の共生の場として（育児不安を含めた）の拠点施設の役割を果たす

今年度より、どんぐりセンター若楠の出張ひろばを開設。2か所の子育て支援センターにて、より身近な子育て支援を行えるようになった。

（4）地域の発達グレーゾーン児等の支援と家族・関連機関への具体的な支援の実施

どんぐりセンター若楠、佐賀県障害児等療育支援事業、若楠児童発達支援センターの各々の事業機能を効果的に活かし、療育や家族等の相談等を積極的に受け入れた。

（5）産前産後の相談支援等の実施

どんぐりこころ子育てサロンを毎月1回開催した。一方的な情報の提供ではなく、参加型のサロンを行ったことにより、リピーターも増え、子育てへの安心感と孤立感の払拭に繋げることができた。

II 利用者の状況（登録者）

1 年齢

＜どんぐりセンター若楠＞

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	合計
男	18	10	17	13	0	58
女	21	12	8	9	1	51
合計	39	22	25	22	1	109

＜児童発達支援センター＞定員 31 名

年齢	3 歳未満	年少	年中	年長	合計
男	8	15	12	20	55
女	4	3	4	3	14
合計	12	18	16	23	69

＜放課後等デイサービス＞定員 10 名

年齢	1 年生	2 年生	3 年生	合計
男	10	6	6	22
女	0	3	0	3
合計	10	9	6	25

＜保育所等訪問支援＞

年齢	保育園	幼稚園	1～3 年	4～6 年	合計
男	1	1	4	3	9
女	0	0	0	0	0
合計	1	1	4	3	9

Ⅲ 事業の実施状況

1 子ども・子育て支援事業

(1) どんぐりセンター若楠

- ・4～5 月は、新型コロナウイルス感染防止のために休園になったが、電話相談等を行った。再開後は、感染防止策を厳守し、定員を 5 組に減らし予約制とした。
- ・年間の延べ人数は減ったものの、メリットとして、一人ひとりとゆっくり対応でき、より丁寧な子育て支援を行うことができた。

＜月別利用状況＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	0	0	150	183	230	270	227	179	141	73	149	168	1,770
1日平均	0	0	7	8	11	14	10	9	7	5	8	7	8

(2) どんぐりこころ子育てサロン

- ・新型コロナウイルス感染防止の為に、休園になった間、「お電話サロン」を開設した。再開後は、感染防止策を厳守し、定員を 10 組に減らした。
- ・和やかな雰囲気の中、参加型のサロン方式を行ったことにより、様々な多くの質問があり、的確で優しい先生方からの回答に安心されるご家族が多く見られた。

- ・子育てサロンを楽しみに来られるご家族（母親）が増え、孤立感の払拭にも繋がった。
- ・3月末にはスプリングコンサートを行い、生演奏を楽しんでいただいた。

<月別利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子ども	0	0	4	0	7	8	8	12	12	0	9	18	78
妊婦	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
母親	0	0	4	0	7	8	8	12	12	0	9	18	78
父親	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	1	2	8
合計	0	0	11	0	14	16	18	26	24	0	19	38	166

2 若楠児童発達支援センター

- ・新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言発出を受け、家庭内療育の協力をお願いし、通所利用は一時的に大きく落ち込んだ。4月下旬～5月上旬は電話やメール等で間接的に家庭療育への支援を行った。
- ・児童を受け入れるにあたって、緊急事態宣言の解除当初は感染対策物品も手に入りづらく、既存の物に手を加えて作成し活用した。感染対策をとりながらどのように療育を提供していくか検討を重ね、実施した。
- ・感染防止対策実施状況は速やかに情報を公開し、保護者の不安軽減に努めた。
- ・保護者支援として例年5月に実施してきた就学準備学習会は、流行状況を見極め、感染防止対策をとりながら6月下旬に実施することができた。
- ・保護者より希望があった交流会は、先輩保護者からの話を聞く会として開催した。

①児童発達支援センター

- ・療育参観は密を避けるため、プレイホールで活動のビデオ視聴と支援の目的の説明、療育体験と親子遊びを実施した。

<利用者数推移>

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
元年度	73	241	4,893	20.3
2年度	69	237	4,639	19.6

②放課後等デイサービス

- ・入学・進級時期と休校期間が重なり、不安定になる児童もいた。また、他の事業所では併用を断るところもあり、長期間利用できない児童がでた。

<利用者数推移>

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
元年度	30	234	1,710	7.3
2年度	25	229	1,412	6.2

③保育所等訪問支援

- ・流行の状況を見極めながら、訪問先と感染防止対策を確認し実施した。

<利用者数推移>

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
元年度	11	60	70	1.2
2年度	9	42	45	1.1

若木園

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

法人の基本理念を踏まえ、地域に役立つ障害者支援施設を目指し、重度の知的障害や強い行動障害をもつ利用者に丁寧な支援を行った。コロナ感染症対策を実施しながら、地域の障害者福祉ニーズ要請に応えるため、新規利用者の受入れ、緊急短期入所、実習生の受入れ、各種の相談支援を行った。また、専門的な支援を行うため外部研修（ウェブ研修中心）の参加も行った。

管理棟及び本館の施設設備も老朽化が著しくなっており、必要に応じ営繕を行いながら、利用者の生活環境の整備と働きやすい職場環境づくりに努めた。

また、各種委員会の内容を充実させるとともに、より実践的な支援や危機管理、働きやすい職場環境につなげるため、産業医の指導を受けて実践している。

II 利用者の状況

1 年齢別・性別

（施設入所）

令和3年3月31日現在（名）

性別 \ 年齢	20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上	合計	平均年齢
男	0	3	14	16	7	0	3	43	44.3
女	0	2	5	8	5	3	5	28	48.8
合計	0	5	19	24	12	3	8	71	46.0

※最少年齢 26 歳 ※最高年齢 75 歳

2 障害支援区分

（名）

性別 \ 区分	3	4	5	6	合計	平均区分
男性	0	1	9	33	43	5.74
女性	0	1	5	22	28	5.75
合計	0	2	14	55	71	5.75

III 事業の実施状況

1 入所支援・生活介護

- （1）高齢化、身体機能低下、疾病のある利用者に対しての必要な支援をより考えるようになり、職員の意識向上につながった。
- （2）毎月の活動計画を作成。各活動の担当職員がアイデア収集や聴取をすることで、考える機会や意見交換が増えた。
- （3）利用者一人ひとりのペースに合わせた個別の支援内容を把握、適宜評価し、経過を情報共有し生活支援を実施。
- （4）ご家族に対し、利用者と家族が望む「生活の場」の意向を尊重し、病院や他施設との

連携についての説明を継続、実施。

2 通所生活介護

- (1) 重度化・複雑化するニーズに対し、丁寧な対応の統一を図った。
- (2) 他事業所との情報共有と将来の生活像を見据えた地域連携のため、担当者会議やケース会議へ出席した。
- (3) 利用者の特性を理解し、豊かな生活を目的とした支援に取り組み、事例研究発表等で報告した。

3 放課後等デイサービス

- (1) 年々高まるニーズに対し、療育に特化した事業展開を継続できている。
- (2) 障害種別ごとの研修へ参加し、専門知識・技術の向上を図った。
- (3) 他事業所、学校と連携し、会議を設けながら総合的な児童への成長発達支援に努めた。

IV 保健衛生

1 健康管理

- (1) 疾病の早期発見及び健康保持増進のため、年2回の健康診断を実施。なお、異常のある方へは、適宜二次検査、治療を実施。
- (2) 各分野の職員との連携にて体調異常の早期発見・早期治療・早期回復に努めた。
- (3) 嘱託医や外来看護師の協力を得て、症状に応じた医療対応を行い、健康管理に努めた。
- (4) 地域の医療機関との連携強化を図り、緊急時や専門医療の受診対応を図った。
- (5) 専門医療については、定期的な専門医の診察を受け、治療を行った。
- (6) 感染症の流行期をはじめ、日々の生活環境の清掃、手洗い、手指消毒等を適切に実施し、施設内感染の防止に努めた。また、感染予防委員会(定期・臨時)を開催し、適宜予防対策の検討を行った。
- (7) 感染症(新型コロナウイルス)については、予防の徹底を行いながら発生時の対応マニュアルを作成、必需品の準備及びシミュレーションを行った。
- (8) 入園者(保護者承諾のもと)、職員は感染や重症化防止のため、インフルエンザ予防接種を実施。また、施設内感染拡大防止にリレンザ吸入や出勤ルールマニュアルを作成して対応した。
- (9) 食事・運動療法については体重管理を行い、嘱託医の指示のもとで管理栄養士、支援員との連携で適切な支援を行った。
- (10) 保健衛生日誌への記録活用により、当日の健康状態など医務の情報共有と支援の連携を図った。
- (11) 保護者への健康管理情報の提供や健康相談を適宜実施することで、信頼関係を築くことに努めた。

2 健康診断等の実施状況（若楠療育園）

実施期間	内 容	実施者数
R2. 5. 11～5. 27	健康診断（血液・尿・胸写・心電図・他計測等）	69 名
R2. 10. 12～10. 27	健康診断（聴打診・血圧・体重・一部採血）	69 名

3 入園者の疾病状況（若楠療育園）（延べ人数：名）

科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
精神科	68	67	68	68	68	68	69	70	70	70	70	70	826
内 科	31	15	6	24	15	15	25	31	32	34	28	30	286
歯 科	8	2	12	13	9	15	12	23	9	11	13	14	141
皮膚科	4	11	6	0	0	2	5	6	2	5	2	14	57
整形外科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	4
リハビリ												7	7
合計	111	95	92	105	92	101	111	130	113	120	113	138	1,321

4 入園者の協力医療機関受診状況（延べ人数：名）

医療機関名	受診状況	医療機関名	受診状況
鹿毛病院	20	原三信病院	3
岩岡整形外科	22	久留米大学病院	3
おか眼科	11	聖マリア病院	1
本間病院	8	肥前医療センター	5
ごんどう皮膚科	6	荒木眼科	0
駒井皮膚科	2	今村病院	14
せとじまクリニック	1	前原耳鼻科	1
くるめ病院	0	大石歯科	2

5 入園者の入退院状況

病院名	疾患名	期間
久留米大学病院	僧帽弁閉鎖不全症	1/7～1/15、 2/8～3/9、 3/15～入院中
今村病院	救急搬送され死亡退院	4/25
肥前精神医療センター	統合失調症	(3/23) ～6/9

6 保健の実施状況

実施事項	回数	対象	実施事項	回数	対象
検温	1日 2回	全員	皮膚科受診	週 1回	異常者
体重測定	月 1回	全員	歯科受診	月 6回	全員
	異常者随時		歯科受診	随時受診	異常者
血圧測定	年 2回	全員	整形外科受診	週 1回	異常者
	異常者随時		療育園以外の 医療機関受診	随時受診	異常者
身長測定	年 1回	全員			

7 感染症罹患状況報告

感染症	期間	罹患者数
なし		

V 食事班

1 実施状況

食事については、利用者個々のアセスメント表に基づき、栄養バランスのとれた献立を作成。多くの食材を使用し、見た目にも鮮やかに工夫した調理を行った。また、適切な時間に提供することができた。

栄養ケアマネジメントにより、看護師・支援員との連携を密にして、一人ひとりの栄養状態の把握はもとより、病態に合わせた食事や運動の取入れを実施することができた。

2 食事利用状況

月 食	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期
朝食	1982	10	2076	0	1963	22	2004	50	2086	0	1961	8	2026	25
昼食	1969	296	2077	256	1956	355	2000	346	2091	340	1957	316	2002	388
夕食	1980	12	2077	0	1958	23	1976	49	2091	0	1941	17	2017	45
小計	5931	318	6230	256	5877	400	5980	445	6268	340	5859	341	6045	458
合計	6249		6486		6277		6425		6608		6200		6503	

月 食	1 1 月		1 2 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期入所
朝食	1926	22	2036	37	2047	39	1943	23	2071	37	24121	310
昼食	1890	346	2018	341	1976	276	1908	265	1994	385	23838	4251
夕食	1930	40	2005	53	2049	43	1945	36	2071	57	24040	428
小計	5746	408	6059	431	6072	358	5796	324	6136	479	71999	4989
合計	6154		6490		6430		6120		6615		76988	

常食入園者 54 名
 きざみ食入園者 3 名
 粗刻み食入園者 12 名
 腎臓病食（減塩食） 1 名
 腎臓病食（減塩・低蛋白食） 1 名
 合計 71 名

VI 地域支援

1 生活介護事業利用実績（通所）

（1）年齢

（名）

年齢 性別	20 歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65 歳以上	合計	平均年齢
男	0	7	6	2	0	0	0	15	32.3
女	2	7	2	1	1	0	0	13	29.7
合計	2	14	8	3	1	0	0	28	30.6

※最少年齢 18 歳 ※最高年齢 56 歳

（2）障害支援区分

（名）

区分 性別	3	4	5	6	合計	平均
男	0	0	5	10	15	5.5
女	0	2	5	6	13	5.2

（3）利用者数

（延べ人数：名）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人数	282	247	342	332	297	295	326	287	304	225	222	322

合計 3481 名
 前年度比－234 名

2 放課後デイサービス事業実績

(1) 年齢

(名)

(歳)

性別 \ 年齢	小学生	中学生	高校生	合計	平均年齢
男	5	13	3	21	13.6
女	2	1	1	4	14.3
合計	7	14	4	25	14.0

(2) 利用者数 (延べ人数 : 名)

(前年度比 -65 名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	51	65	78	74	56	76	89	74	85	71	69	78

合計 866 名

3 短期入所事業実績

(1) 年齢

(名)

就学前	小学生	中学生	高校生	18～20 歳
男 0	2	0	2	2
女 0	0	0	1	3
21～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	合計
男 12	6	2	0	26
女 6	5	1	0	16

(2) 障害支援区分

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	1	0	1	9	10	21
女	0	0	0	2	3	9	14
男 (児)	0	1	3				4
女 (児)	0	1	0				2

(3) 利用者数

(延べ人数 : 名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用	18	0	39	71	0	16	35	40	59	44	24	56	402

前年度比 -407 名

4 日中一時支援事業実績

(1) 年齢

(名)

就学前	小学生	中学生	高校生	18～20 歳
男 0	5	1	1	2
女 0	0	1	0	1
21～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	合計
男 5	1	0	0	15
女 5	1	0	0	8

(2) 利用者数

(延べ人数：名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用	5	8	15	16	19	23	44	40	42	21	29	22	284

前年度比+77名

※適切かつ丁寧な対応を要する重度障害児・者の利用受け入れ数増加に伴い、総合的な利用数は増加となった。職員支援体制を調整しながら実施した。

Ⅶ 地域社会との交流

1 実習生

(名)

実習の種類	実習校	期間	人数
高等部現場実習	中原特別支援学校	令和2年11月2日～11月12日 令和3年2月1日～2月10日	4
中学部現場実習	中原特別支援学校	令和2年11月30日～12月4日 令和2年12月3日～12月4日	2
社会福祉士実習	熊本YMCA学院	令和3年1月25日～2月22日	1
介護体験実習	西九州大学	令和2年11月9日～11月13日 令和2年11月30日～12月4日	3

2 ボランティア

*新型コロナウイルス感染防止対策を行っているため、受入を全てお断りしている。

3 交流活動

- ・若木祭
- ・山浦地区敬老会
- ・麓地区夏祭り
- ・地域音楽教室
- ・鳥栖市障害者理解促進事業
- ・麓地区文化祭
- ・弥生が丘文化祭 (*新型コロナウイルス感染防止対策のため参加、開催中止となる)

Ⅷ 総務

1 職員状況

(名)

	施設長	児童発達支援責任者 サービス管理責任者	生活支援員	保育士	児童指導員	看護師	管理栄養士	調理師(員)	事務員	環境整備員	その他	合計
元年度	1	3	49	2	0	2	1	6	3	2	2	71
2年度	1	3	47	1	1	3	1	6	3	2	1	69

※臨時・短時間職員を含む。※生活支援員には、介護福祉士・社会福祉士等資格保有者を含む。

2 職員研修

(1) 内部研修

月	研修等名	内容	開催地	参加者
4	法人職員研修	新採研修	若楠療育園	佐保 井浦
	園内研修	新採研修	若木園	佐保 井浦
	法人職員研修	リーダー研修	青葉園	辻 百田
	法人職員研修	一年経過者研修	若楠療育園	別府（担当者） 天本 檜崎 竹中
7	法人職員研修	主任研修	若楠療育園	河上 奥村 田中み 宮原 中山 平石
9	法人職員研修	課長研修	若楠療育園	中村り 別府
10	法人職員研修	働き方研修	若楠療育園	佐保 井浦
	法人職員研修	中間業績報告会	若楠療育園	村山 中村り 別府
2	法人職員研修	事業計画説明会	若楠療育園	村山 別府
3	園内研修	事例研究発表会	若木園	（参加者職員）
	園内研修	モチベーション研修	若木園	（参加者職員）

(2) 外部研修

月	研 修 名	会 場	参加者
6	サービス管理責任者更新研修	アバンセ	中村り 別府
8	D C A T 基礎研修		中村り
	感染対策講習会	鳥栖保健所	矢永
	サービス管理責任者更新研修	（ウェブ研修）	中村ま
9	労働衛生週間説明会		宮原
	保健衛生部会研修会	（ウェブ研修）	宮原
10	強度行動障害支援者養成研修	佐賀市	真崎
	食品衛生責任者実務者講習会	鳥栖市民文化会館	河上 立石
11	応用行動分析連続講座	（ウェブ研修）	山鹿 井浦
	自立支援協議会講習	鳥栖市民文化会館	中村ま 田中み
	障害者スポーツ指導者講習	長光園	内山 田中み
2	「看取り」研修	（ウェブ研修）	村山 遠藤た 大島 奥村 宮ノ前 佐々木 山口る
3	佐賀県社協チームワーク・モチベーション講習	（ウェブ研修）	中村り
	佐賀県知的障害者福祉協会	（ウェブ研修）	村山 別府

3 視察・見学等の受入れ

* 新型コロナ感染防止対策を行っているため、受入を全てお断りしている。

4 防災管理

毎月1回の防災訓練を様々な想定で実施している。

今年度も、初期消火に力を入れての取り組みを行った。一斉メールでの緊急連絡方法も確立ができています。

防火管理委員会（年4回）では、火災対策の他に自然災害等のリスクに備え意見交換や園内での対策方法の協議を行っている。

令和2年度も、東館二階（女子棟）の避難訓練を重視し、消火手順、避難経路、応援体制の確認を行った。

AED講習も感染防止対策をしっかりと行い、消防署より職員を招いて行うことができた。二回目、三回目に関してはコロナ感染防止対策を行っていたために中止した。

5 施設整備及び環境の整備状況

（1）施設整備

- ・ 厨房吸気ダクト改修工事
- ・ 本館男子棟職員室エアコン修理工事
- ・ 本館男子棟居室エアコン修理工事
- ・ 東館3Fテラスフェンス修繕工事
- ・ 本館中央棟トイレ改修工事
- ・ 東館2Fエアコン修理工事
- ・ 本館女子棟職員室漏水修繕工事
- ・ 栄養士PC修理
- ・ 本館水道漏水修理
- ・ ファミリー館前アスファルト補修工事
- ・ 本館エアコン圧縮機修理
- ・ 本館会議室照明器具改修工事
- ・ 本館応接室照明器具改修工事
- ・ 本館エアコンガス充填

（2）備品等整備

- ・ ノートパソコン更新 3台
- ・ 本館男子棟職員室エアコン更新
- ・ UTM更新
- ・ 本館男子棟ホールエアコン更新
- ・ 配膳車

6 寄付

ご芳名
若木園保護者会 様
田邊 直子 様
腰 孝二 様
佐賀県共同募金会 様

青葉園

I 運営概要

若楠の理念のもと、青葉園、青葉ホームともに利用者、家族、地域から信頼される事業所を目指し取り組んだ。

利用者は、加齢に伴う機能低下等の出現者数が増えており、緊急時対応マニュアルを作成、日々の観察の視点等を職員間で共有するとともに、若楠療育園をはじめ地域の機関と相談をして、利用者の生活支援に努めた。

新型コロナウイルスへは対策を講じた上で、新しい生活様式をとり、日常生活、行事等を計画、実行しコロナ禍での心身のケアに努めた。また、利用者と家族、家族と職員の繋がりを維持するために、面会等制限の細目な見直し、定期的な連絡やSNSを使用した面会を行った。

II 利用者の状況（入所）

1 年齢

（入所）

令和3年3月31日現在（名）

年齢	20未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65以上	合計	平均年齢
男	0	1	6	27	11	15	21	81	55 歳
女	0	0	3	9	5	12	17	46	60 歳

（通所）

令和3年3月31日現在（名）

年齢	20未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65以上	合計	平均年齢
男	0	6	2	3	1	1	0	13	35 歳
女	0	3	1	2	1	0	0	7	36 歳

2 障害支援区分

（入所）

（名）

区分	1	2	3	4	5	6	計
人数	0	0	1	24	49	53	127

（通所）

（名）

区分	1	2	3	4	5	6	計
人数	0	0	4	8	6	2	20

III 事業の実施状況

青葉園

1 活動型

- （1）ユニット活動（散歩、体操、ドライブ、誕生会、調理実習、目的別外出等）
- （2）陶芸クラブ（月2回）
- （3）利用者の希望に応じた個別活動（買い物、外食等）

2 生産型

- （1）生産活動の提供
クリーニング、業務受託（清掃等）、くすの樹、軽作業（内職）、陶芸教室等の活動を提

供し、働くことの喜びややり甲斐の提供に努めた。

3 全体行事

- (1) カラオケ大会（5月）、青葉祭（10月）、若楠感謝 DAY（11月）、クリスマス会（12月）、餅つき（12月）

4 青葉ホーム

- (1) 弥生が丘東区の美化活動（年1回）、イベントへの参加
- (2) 青葉ホーム山浦は班長会へ参加、地区の行事に参加
- (3) 環境整備として年2回、各ホームの除草作業等を行う

5 地域交流

- (1) 若楠感謝祭の代替で「若楠感謝 DAY」をくすの樹で開催
- (2) 地域の関係機関へプランターの贈呈
- (3) 弥生が丘東区除草作業への参加（秋、年1回）
- (4) 弥生が丘まちづくり推進協議会への協力

IV 生産型活動における生産品等、販売実績

1 収益実績

(円) / 年間

	クリーニング	業務受託	軽作業（陶芸）	くすの樹	共通	合計
売 上	2,500,000	9,143,930	426,036	3,234,744	1,034	15,305,744

2 工賃支給額

(円) / 年間

生産型	活動型	合計額
2,255,309	1,230,185	3,485,494

V 医務

1 健康管理

- (1) 緊急時対応マニュアル・個別医療情報シートを作成。救急時や受診時に、医療・生活面での利用者の詳しい情報を病院、他機関へ提供した。
- (2) 年2回の健康診断を実施。結果は家族に報告するとともに、必要な検査については家族と相談して対応した。
- (3) 慢性疾患、痙攣のある利用者に対し、嘱託医へ相談、受診、状態観察等適切な対応、処置を行った。
- (4) 医療機関への通院者、入院者に対して担当医師と情報交換を行い、必要な看護に努めた。
- (5) インフルエンザ予防接種は家族・利用者・職員へ説明と承諾を得て実施した。
- (6) 感染予防対策として健康状態の把握とともに、清潔、換気に留意し、外出時のマスク着用、手洗い・アルコール消毒の励行を行った。新型コロナウイルス・ノロウイルス・インフルエンザ等感染対策マニュアルを作成し、職員への情報提供に努めた。感染時には隔離を行うなど、初期の対応を迅速に行った。
- (7) 高齢者、虚弱者の疾病の予防に努めた。また、成人病、肥満の予防及び対策として栄養課との協力体制をとった。

2 健康診断、予防接種の実施

実施月	内容
4、5、6	利用者健康診断（春）
10、11	利用者健康診断（秋）
10、11	インフルエンザ 予防接種

*風疹予防接種～8名

3 利用者の入院状況

医療機関名	期間
やよいがおか鹿毛病院	令和2年 3月 30日 ～ 令和2年 4月 13日
	令和2年 6月 30日 ～ 令和2年 7月 6日
	令和2年 7月 31日 ～ 令和2年 10月 29日
	令和3年 1月 15日 ～ 令和3年 3月 3日
	令和3年 2月 15日 ～ 令和3年 2月 24日
	令和3年 3月 5日 ～
	令和3年 3月 6日 ～ 令和3年 3月 12日
	令和3年 3月 19日 ～
聖マリア病院	令和2年 9月 15日 ～ 令和2年 9月 25日
	令和2年 12月 23日 ～ 令和3年 1月 15日
今村病院	令和2年 4月 5日 ～ 令和2年 4月 8日
	令和2年 7月 22日 ～ 令和2年 7月 25日
肥前精神医療センター	令和2年 8月 4日 ～ 令和3年 1月 19日
大島病院	令和元年 11月 11日 ～ 令和2年 5月 21日
	令和2年 9月 28日 ～ 令和2年 12月 2日

4 利用者の受診状況

(件)

医療機関	受診数	医療機関	受診数
若楠療育園	2,095	肥前精神医療センター	25
若楠療育園歯科	1,007	いぬお病院	5
やよいがおか鹿毛院	165	大島病院	32
聖マリア病院	11	ごんどう皮膚科	15
岡眼科	141	前山内科	3
中州医院	1	佐賀大学医学部附属病院	1
久留米大学病院	14	梅野耳鼻科	3
		合 計	3,518

Ⅵ リハビリテーション

1 実施状況

- (1) 対象者40名に個別リハビリテーションを定期的実施し、利用者の能力維持に努めた。
- (2) ユニット単位で集団療法の実施を月2回行い、体操・スポーツ・レクリエーション制作活動を行った。
- (3) リハビリテーション診察後の身体障害者手帳の申請、補助制度を使用した車いすや装具等の購入を検討し、利用者に合ったものを提供した。
- (4) 利用者の状況に応じて、住環境の見直しや福祉器具についての助言を行い、自動介護リフト等を導入した。

Ⅶ 栄養課

1 給食状況

- (1) 身体状況や喫食状況を考慮し、グリーンファーム山浦やどんぐり村の新鮮な野菜等を積極的に使用した献立を作成し、安心・安全な食事提供に努めた。
- (2) 温かい物は温かく、冷たい物は冷たくを心がけ、直前配膳等に努めた。
- (3) 体調不良や咀嚼不良の時は、別メニュー、別形態にて個別対応に努めた。
- (4) 季節毎の行事食を取り入れ、利用者の方々に楽しみにしていただいた。
- (5) 利用者に適した食事を提供するため、生活支援員・看護師との連携を図った。
- (6) 非常時・災害時（栄養課不在時）の食事提供ができる体制を整えた。

2 食事利用状況

(食)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所
朝食	3706	60	3895	34	3753	30	3880	31	3851	31	3734	30	3829	31
昼食	3510	379	3587	340	3560	409	3645	389	3693	402	3512	311	3600	359
夕食	3713	60	3840	34	3724	30	3848	31	3814	31	3665	30	3825	31
小計	10929	499	11322	408	11037	469	11373	451	11358	464	10911	371	11254	421
合計	11,428		11,730		11,506		11,824		11,822		11,282		11,675	
	11月		12月		1月		2月		3月		合計			
	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所		通所	
朝食	3716	31	3816	31	3833	31	3487	55	3851	34	45351		429	
昼食	3545	385	3519	292	3618	249	3331	275	3677	369	42797		4159	
夕食	3681	31	3814	32	3818	32	3422	58	3796	34	44960		434	
小計	10942	447	11149	355	11269	312	10240	388	11324	437	133108		5022	
合計	11,389		11,504		11,581		10,628		11,761		138,130			

VIII 総務課

1 職員状況

令和3年3月31日現在（名）

	園長	サービス管理責任者	事務員	生活支援員	看護師	作業療法士	管理栄養士	調理師等	世話人	夜勤専従（ホーム）	医師（嘱託）	合計
元年度	1	6 ※GH2	8	85	3	1	2 ※兼務1	14	10	17	1	148
2年度	1	6 ※GH2	8	85	4	1	2 ※兼務1	13	10	17	1	148
増 減	0	0	0	0	+1	0	0	-1	0	0	0	0

※契約職員・短時間勤務職員含む

2 職員研修

月	研 修 会 等 名 称	開催地	参 加 者
7	社会福祉法人における会計基礎知識研修	佐 賀 市	牟田
8	佐賀県サービス管理責任者等研修基礎研修	小 城 市	山田・永尾
10	佐賀県相談支援従事者初任者研修	オンライン	山田・永尾
	強度行動障害支援者養成研修	佐 賀 市	松延・西田・村上・米田
2	強度行動障害支援者養成研修	佐 賀 市	高瀬・松田・下尾・島原
3	強度行動障害支援者養成研修	佐 賀 市	山崎・濱地
	令和2年度指導部会研修	オンライン	溝田・坂井

3 視察等の受入

（名）

本年度実績なし（新型コロナウイルス対策のため）

4 防災・防犯管理

青葉園

- （1）定期的な防火避難訓練を実施（毎月1回）
- （2）受付にて記名、名札を来園者につけていただく

青葉ホーム

- （1）防火避難訓練を実施（年4回）

5 施設整備および環境の整備状況

（1）備品等の整備

- ・床走行式電動介護リフト ・パソコン（1台） ・エアコン
- ・ユニットハウス ・業務用冷蔵庫・タブレット端末 ・空気清浄機（3台）
- ・インターネットチェックポイント ・プリンター複合機

6 寄付・寄贈

ご 芳 名
青葉園・グリーンファーム山浦・青葉ホームの利用者を支える会「みつば」様
佐賀県共同募金会 様
草野 秀義 様
井上 美津子 様
高取 静代 様
篠原工務店 様

Ⅸ 障害福祉サービス事業及びその他社会福祉事業の実施状況

1 短期入所

(1) 利用者数・利用日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	9人
延べ利用日数	34	4	0	0	0	0	0	2	2	0	28	10	80日

※新型コロナウイルス対策により緊急性の高い利用者のみを受け入れた。

2 日中一時支援

(1) 利用者数・利用日数

本年度実績なし（新型コロナウイルス対策のため）

3 青葉ホームの状況（山浦・弥生が丘Ⅰ・弥生が丘Ⅱ・弥生が丘Ⅲ）

(1) 年齢 (令和3年3月31日現在) (名)

年齢	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65以上	合計	平均年齢
男	1	1	4	8	8	3	0	25	46
女	0	6	2	6	3	0	0	17	38

(2) 障害支援区分 (令和3年3月31日現在) (名)

場所	区分	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
山浦		2	0	2	2	3	0	0	9
弥生が丘Ⅰ		0	0	2	2	6	0	0	10
弥生が丘Ⅱ		1	0	2	5	2	1	0	11
弥生が丘Ⅲ		2	0	1	1	7	1	0	12
合計		5	0	7	10	18	2	0	42

(3) 日中活動状況

(令和3年3月31日現在) (名)

種別 場所	生活介護	就労継続B型 就労移行支援	就労継続A型	一般就労	その他	合計
山浦	0	7	1	1	0	9
弥生が丘Ⅰ	0	6	2	2	0	10
弥生が丘Ⅱ	4	5	1	1	0	11
弥生が丘Ⅲ	4	5	1	2	0	12
合計	8	23	5	6	0	42

X 地域社会との交流

1 特別支援学校等実習受入状況

(1) 中原特別支援学校(高等部)

(名)

期 間	人 数
令和3年2月8日	1

2 介護等実習の受入状況

本年度実績なし(新型コロナウイルス対策のため)

3 ボランティア活動状況

本年度実績なし(新型コロナウイルス対策のため)

もしもしネット

I 障害者就業・生活支援センター事業の実施

安定した職業生活や自立を目的として、就業及びこれに伴う日常生活、または社会生活上の支援を必要とする障害者に対して関係機関と連携し、障害者及び事業主等に必要な助言や支援を行い、雇用の促進及び職業の安定を図った。

1 令和元年度障害者就業・生活支援センター事業実施状況

(1) 障害種別・就業状況別の支援対象障害者（登録者）数 (名)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他	合計
		うち重度		うち重度			
在職中	28	7	178	36	92	7	305
求職中	14	1	38	9	66	7	125
その他	0	0	9	0	1	1	11
合計	42	8	225	45	159	15	441
R1 年度	39	8	203	43	137	9	388

(2) 支援対象障害者に対する相談・支援件数（手段別） (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
センターへの来所（本人・ほか家族等含む）	48	89	64	4	205
電話・メール相談（本人・家族のほか関係機関等の電話も含む）	249	1,490	978	57	2,774
職場訪問（定着支援ほか、職場実習支援含む）	90	785	358	16	1,249
家庭・入所施設への訪問	10	120	24	5	159
その他（ハローワーク同行訪問、各種手続き、病院受診同行、ケース会議他）	82	225	219	18	544
合 計	479	2,709	1,643	100	4,931
R1 年度	235	2,190	1,227	48	3,700

(3) 事業所に対する相談・支援割合（内容別） (件)

雇入れに関する相談・支援	321
雇用する障害者の職場適応・職場実習に関する相談・支援	1,271
雇用する障害者の生活面に関する相談・支援	856
障害者の雇用支援制度に関する相談・支援	2
その他	27
合 計	2,477
R1 度	1,647

(4) 職場実習のあっせん件数 (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R2	2	15	5	0	22
R1	1	12	8	0	22

(5) 就職件数及び就労支援継続A型事業所への就職件数

<一般就労> (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R2	4	26	18	2	50
R1	2	30	15	2	49

<就労継続支援A型> (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R2	5	2	7	0	14
R1	1	5	3	0	9

(6) 職場定着率・・・1年経過時点 (%)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	平均
R2	50	87.1	66.7	100	80
R1	100	80.7	68.2	0	77.6

II 研修等の受講

1 令和2年度就業支援基礎研修 9/14 9/17 9/18

(於：佐賀職業能力開発センター 片渕)

2 R1度障害者就業・生活支援センター九州・沖縄ブロック経験交流会議 12/9 (於：Web 開催 小川)

3 全国就労支援ネットワーク 全国フォーラム R3.2/12 (於：Web 開催 権藤)

【もしもしネット・グリーンファーム山浦就労移行 合同勉強会】

・4/18 5/16 6/19 7/17 9/18 10/23 11/20 12/18 3/9 (全9回)

参加者：B型 就労移行職員 もしもしネット (各回 約16名)

内容：各回テーマを設定しケース検討、個別支援計画作成、実務研修、手話講習等
(於：グリーンファーム山浦多目的室)

Ⅲ その他

1 関係機関との連絡会議の開催

令和2年8月9日 サンメッセ鳥栖

参加機関：佐賀県就労支援室 ハローワーク鳥栖 佐賀障害者職業センター
各支援学校 就労移行支援事業所 佐賀県生活自立センター
総合相談窓口 就労継続支援B型事業所 普通学校 (計52名)

講 義：愛着障害の理解と支援

和歌山大学教育学部教授 米澤 好史 氏

愛着障害における特性、メカニズムや理解等事例に沿って講義

令和2年8月28日 グリーンファーム山浦多目的室

参加機関：総合相談窓口

移行支援事業所 就労継続支援B型 (計20名)

講 義：障害者雇用における企業の視点

旭食品株式会社 九州支社 部長 守田 豊氏

障害者雇用における企業から見た視点

困難事例や支援者に対して望むことなど

2 在職者交流会の実施

円滑な就業生活と職場定着を目的に余暇活動の一環とした交流会の開催 (年4回)

・職場での人間関係、リラクゼーション方法、自立に向けての調理実習等

・6月 9月 12月 3月 での計画を立てていたが、コロナウイルスの影響により、中止となる。

Ⅳ 総括

令和2年度は新規登録者61名 (身体5名・知的22名：うち12名は特別支援学校卒・精神27名・その他7名)、就職支援のべ73名、退職等対応のべ35名の他、普通学校や中学卒業等、若年者における対応、生活困窮者支援、関係機関・精神科医療との連携、家族・生活支援等幅広いニーズが求められた。新規の登録において、今年度も精神障害者の相談が圧倒的に多く、発達障害の二次的要因、愛着の問題や成育の環境も念頭に支援をする必要が多かった。さらに、今年度はコロナウイルスの影響により不調となった方も多くあり、コロナ禍の中においても事業所より支援の依頼や直接面談等時間を要するケースが多くあった。

職場定着率では昨年度平均78%に対し、今年度80%と目標を達成することができたが、とりわけ精神障害者においては昨年同様60%代と依然として低いため、今後も本人や事業所におけるニーズの把握や環境調整、関係機関との連携を確実に行之職員のスル向上に努める必要を感じた。その他、就労移行支援事業所（グリーンファーム山浦）とも連携を図り、同行支援や勉強会などを通して相互に支援力を強化することができた。東部圏域唯一の資源でもあるため、今年度も連携等を強化するとともに、国が政策に掲げている「雇用施策と福祉施策の連携」の先駆けとして、法人としての付加価値や強みとなり、地域の信頼、貢献につながることを目指したい。

どんぐり村

I 運営概要

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、利用者の自粛休みやゴールデンウィーク期間の観光事業休業など様々な面で制約を余儀なくされる状況となった。その反面、秋以降の観光事業については、屋外施設ニーズの高まりもあり、来場者が増加するなど、今後の事業運営のヒントとなる年度にもなった。

利用者支援については、一人ひとりの可能性を高められるように支援の充実を図りながら、販売、製造、育成、接客などそれぞれの得意分野を伸ばしていく点に重点を置いた。

どんぐり村に来場していただく方たちが増え、地域が活気づいていくことが、社会への貢献度を高めていき、利用者の働く意欲にもつながっていくということを念頭に運営を行った。

II 利用者の状況

1 年齢分布図

(名)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～以上	合計
男	1	5	9	4	4	2	5	1	5	36
女	0	4	3	5	1	1	0	1	4	19
計	0	9	16	9	6	3	5	2	9	55

※最年少者 20 歳 最年長者 69 歳 男性平均 38 歳 女性平均 38 歳 総平均 38 歳

2 事業別利用契約者数

就労継続支援事業B型 55 名（男性 36 名、女性 19 名）

3 市町村別利用者数（受給者証発行市町村）

(名)

	佐賀市	鳥栖市	神埼市	みやき町	小城市	多久市	白石町	吉野ヶ里町	合計
男	20	2	7	2	1	2	1	1	36
女	8	0	3	1	2	5	0	0	19
計	26	2	10	3	3	7	1	0	55

4 手帳の所有状況（療育・身体障害者・精神保健福祉手帳）

(名)

	男	女	合計
療育手帳	34	19	52
身体障害者手帳	1	1	2
精神保健福祉手帳	2	0	2
合 計	37	20	56

※複数所有者含む

III 事業の実施状況

1 就労継続支援事業B型（定員 40 名）

(1) サービス部門（物販、パン工房、体験工房、飲食サービス）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、屋内での飲食サービスや体験工房などを中止し、屋外でのサービス向上に努めた。特に、不特定多数の来場者と関わるため、

利用者、職員の感染防止対策の徹底を図った。

9月のシルバーウィークでは、予想を超える来場者に来ていただくことができ、物販、パン工房、飲食の利用者は意欲的に接客などの対応を行うことができた。

(2) 牧場部門（農園芸、環境整備、動物飼育）

農園芸班については、佐賀市の緑化推進事業（花苗配布事業）を実施し、予定の9万本（昨年度6万本）を納めることができた。また、さつまいも、ほうれん草の収穫も順調に行うことができた。動物飼育班では、1月よりヤギの出産が増え、利用者のやりがいと来場者へのPRにつながった。

(3) 福祉部門（軽作業班）

軽作業の内容も充実し、どんぐりを使用した装飾品や利用者が描いた絵画など、少しずつではあるが、商品化することができた。また、三瀬の直売所などでも販売することができ、利用者の社会参加にもつながった。

(4) 行事の開催

利用者旅行や保護者との懇親会などは中止となったが、休園日を利用して、園内バーベキュー大会などを実施し、利用者の働く意欲が落ちないように、また、どんぐり村の魅力を感じてもらえるような取組を行った。

(5) 企画委員会の発足

これからの30年、どんぐり村が地域の宝であり続けるための方策を検討する委員会を法人内で組織化し、「どんぐり村の魅力」「これから必要な取組み」などを話し合う場を作った。

法人職員アンケートも実施し、様々な意見を聞く機会を作ることができた。

2 就労支援部門実績

(1) 入場者数実績

(名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
842	2,443	3,280	1,967	4,891	12,096	12,252
11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
12,626	3,177	1,700	7,241	4,272	66,787	

(2) 売上実績

(千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1,729	3,283	4,086	2,716	6,489	14,233	16,123
11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
12,370	4,089	2,137	7,983	7,820	83,058	

3 工賃支給実績

就労継続支援B型					
月	支給人数（人）	支給額（円）	月	支給人数（人）	支給額（円）
4	54	1,369,550	10	53	1,538,500
5	54	1,408,450	11	55	1,443,900
6	54	1,379,150	12	55	1,510,750
7	54	1,379,150	1	54	1,270,200
8	54	1,443,950	2	54	1,335,300
9	54	1,432,250	3	54	1,488,400
合計支給人数（人）		649	合計支給額（円）		16,999,550

※就労継続B型支援事業 平均工賃 26,193 円

VI 地域社会との交流

1 実習

特別支援学校、地元中学校の就業体験など新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら受け入れ、人間形成の一翼を担う社会資源としての役割を果たした。

（1）特別支援学校職場体験実習

期 間	作業部門	人 数
大和特別支援学校（高等部） 6月22日～ 7月3日	農園・パン	3名
唐津特別支援学校（高等部） 9月9日	環境整備	30名
大和特別支援学校（高等部） 10月26日～11月13日	農園・パン	2名
中原特別支援学校（高等部） 11月 9日～11月20日	物販・花苗	1名
大和特別支援学校（中学部） 11月18日	環境整備	46名
大和特別支援学校（高等部） 12月 7日～12月11日	動物	1名
中原特別支援学校（高等部） 1月12日～ 1月26日	花苗	1名
中原特別支援学校（高等部） 2月 1日～ 2月12日	花苗	1名

（2）その他

期 間	作業部門	人 数
西九州大学 10月 5日～10月 9日	動物	2名
西九州大学 10月12日～10月16日	動物	2名
三瀬中学校 10月28日～10月29日	体験工房	2名
佐賀県教育センター適応指導教室しいの木 11月27日	パン・動物	3名
佐賀女子短期大学 3月1日～3月5日	パン	1名

2 地域交流

地域交流のイベント等はほとんど中止となったが、花苗事業を通して、佐賀市や三瀬村との地域交流は継続して行った。

期 間	場 所
三瀬温泉入口花壇花植え作業 5月17日～ 5月24日	三瀬やまびこの湯入口
三瀬公民館花壇花植え作業 7月27日～ 7月29日	三瀬公民館
佐賀市公共施設花苗事業（前期） 5月15日～ 6月30日	佐賀市内公共施設等
佐賀市公共施設花苗事業（後期） 10月19日～ 11月30日	佐賀市内公共施設等
第4回三瀬高原音楽祭 10月31日～ 11月 3日	中 止
第3回ふれあい芸術祭 10月 4日	中 止
三瀬田舎と都市のふれあい祭り 10月24日～ 10月25日	中 止
きらめきフェスタ 11月21日	中 止
三瀬公民館花壇花植え作業 11月11日～ 11月15日	三瀬公民館

V 総務

1 職員状況

(名)

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	目標工賃達成指導員	職業指導員	事務員	販売員・環境整備員	合計
1年度	1	1	1	1	23	1	6	34
2年度	1	1	1	1	25	1	6	36

2 職員研修

研修名	場所	期日	参加者
職員研修会（新採職員）	若楠療育園	4月1日・2日	古川 山口
職員研修会（主任等）	若楠療育園	7月10日	貞包 小笹
職員研修会（課長等）	若楠療育園	9月 4日	貞包 中村
障がいの理解①（園内研修）	どんぐり村	8月25日	全員
障がいの理解②（園内研修）	どんぐり村	12月22日	全員
楽しく働く（メンタルヘルス研修）	どんぐり村	2月16日	全員

3 防災・安全管理

食品や動物に関わる作業、山間地での作業など衛生管理、安全管理を徹底して行う必要がある部門が多いため、法令に従いながら確実な管理に努めた。特に、利用者の怪我、車両の事故については、職員の意識向上を図りながら、大きな事故につながらないように努めた。

4 施設整備及び環境の整備状況

- | | |
|-------------------|--------------|
| ① パン工房空調改修工事 | ② 井水圧ポンプ改修工事 |
| ③ 消防設備不良改修工事 | ④ 乗馬場トイレ改修工事 |
| ⑤ 園内除草作業（野焼き準備委託） | ⑥ 雲の池泥撤去工事 |

グリーンファーム山浦

I 運営の概要

若楠の基本理念「利用者中心主義」「開かれた施設」「若楠ファミリー」を念頭に置き、利用者一人ひとりの意向に則して、楽しくやりがいを持って働ける場所、一般就労に向けた社会性の習得や作業訓練を行う場所を提供することができた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、地域との交流が制限されたが、感染予防対策を慎重に行い「梅まつり」など、園内行事の規模を縮小して開催できた。

また、関係機関と調整を図り園内研修を積極的に行い、利用者支援の質の向上に努めた。

1 活動の状況

事業本来の役割（就労支援・工賃向上）を重視し、個々の能力を発揮できる支援を行うとともに、明るく楽しい職場づくりに力を入れた。

- (1) 部署間での協力体制の効率化を図りながら、外部受託作業等を積極的に取り組み就労支援事業収入の安定に努めた。
- (2) 各関係機関（行政・教育・医療・相談等）との情報共有や連携を密に行い、利用者の生活面も含めた手厚い支援を行った。
- (3) もしもしネットや企業との連携を一層強化したことで、就労移行から定着に至る支援体制が充実し、新規利用獲得にもつなげることができた。
- (4) 保護者との情報交換を密にし、課題解決に向けて迅速な対応を行うことで信頼関係を深めることができた。
- (5) 給食アンケートによる利用者の意向を踏まえ、オリジナルメニューや行事食を企画し満足度を高めた。また、レシピ管理を行い、経費削減と業務効率化につなげた。
- (6) 園内研修では外部講師を招き、全体での事例検討や意見交換を深めることで、職員の意識向上を図った。
- (7) 新型コロナウイルス感染拡大に対し、個々の利用者及び職員の生活状況や健康把握に努め、全員の危機管理意識や感染予防対策を一層強化した。

2 就労継続支援B型事業

各部署間の連携力強化と効率化を図りながら、新規の外部受託作業にも積極的に取り組み、利用者が主体となる作業の幅が広がった。

設備拡充を推進し、生産性向上及び経費削減対策を図った。さらに、生産品の安心・安全を追求しつつ地域に向けた情報発信を行うとともに、販売促進強化に努め、工賃向上に繋げることができた。

3 就労移行支援事業

外部清掃作業を中心に、一般就労に必要な基礎訓練（報連相・ピッキング・社会マナー等）を行い、利用者の作業能技能及び社会性の向上を図った。また、受入先企業の開拓に努め、利用者の実習や見学、求職活動に繋げることで一般就労への意識向上にも努めた。もしもネットとの合同研修会を定期的を開催し、情報共有や意見交換を行うことで支援内容の充実を図ることができた。

就労移行アセスメントは利用希望が集中しており、圏域唯一の就労移行支援事業所として役割を強く意識しながら、関係機関と連携して受け入れを積極的に行った。

4 就労定着支援事業

事業開始から2年経過し、利用者の就労先との連携も強化してきた。もしもネットとも情報共有しながら、利用者の課題解決に向けて迅速に対応し、本人及び家庭や企業との信頼性向上に努めた。

II 利用者の状況

1 年齢別性別の状況

(1) 就労継続支援B型 (人)

年齢 性別	20歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65歳 以上	計	平均年齢
男 性	3	5	8	11	7	3	2	39	42歳05ヶ月
女 性		2	4	7	3			16	41歳06ヶ月
合 計	3	7	12	18	10	3	2	55	42歳02ヶ月

(2) 就労移行支援 (人)

年齢 性別	20歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65歳 以上	計	平均年齢
男 性	1	1	4	2				8	34歳04ヶ月
女 性		1						1	21歳04ヶ月
合 計	1	2	4	2				9	32歳10ヶ月

(3) 就労定着支援 (人)

年齢 性別	20歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65歳 以上	計	平均年齢
男 性		1	2	2				5	36歳07ヶ月
女 性			1					1	38歳01ヶ月
合 計		1	3	2				6	36歳10ヶ月

2 障害別性別の状況

(1) 就労継続支援B型

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神保健福 祉手帳 2 級	精神保健福 祉手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	14	25				39
女 性	2	12	2			16
合 計	16	37	2			55

(2) 就労移行支援

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神保健福 祉手帳 2 級	精神保健福 祉手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性		5		2		7
女 性			1			1
合 計		5	1	2		8

※該当なし 1 名

(3) 就労定着支援

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神保健福 祉手帳 2 級	精神保健福 祉手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性		5				5
女 性		1				1
合 計		6				6

Ⅲ 事業の実施状況

1 農園芸班 (作業科目) 花苗栽培・花壇管理・鶏卵・野菜栽培・果樹栽培

行政やどんぐり村等外部受託契約を中心に幅広く事業を行った。新規受託契約も増加し収入安定に繋がった。また、コロナ禍で活動が制限される中、街づくり推進センターとも調整しながら、ガーデニング教室や子ども体験教室を開催し、地域交流を積極的に実施した。

野菜栽培においては、職員の専門性を活かしながら、有機栽培による土壌改良及び品質向上を図った。鶏卵事業では飼育環境を整備し、業務の効率化と産卵率の向上を目指した。また、鮮度管理を徹底し、各方面の顧客に対して安定した供給を行い満足度の向上にも努めた。

- 2 菌床椎茸・業務受託（清掃）班 （作業科目） 菌床椎茸栽培・児童発達支援センター清掃
菌床椎茸部門では、菌床の入荷数を調整することで、管理業務の軽減と効率化を図り収益の安定化に努めた。繁忙期は各作業班との協力体制で柔軟に対応できた。

業務受託（清掃）部門では、外部での清掃作業を通して、挨拶やマナー等の社会性及び就労に対する意識の向上を図った。新規外部受託として、市内物流倉庫内でリサイクル作業（卵パック圧縮）に取り組み、収入増に繋げることができた。

- 3 食品加工班 （作業科目） 味噌・菓子製造販売

新型コロナ感染拡大の影響で学校給食が一時的に休止したこともあり、当初は味噌の出荷量も減少したが、直売店や小売りは順調で、後半は増産体制を整えながら安定供給に努めた。菓子製造も、地域企業を中心に受注が相次ぎ、イベント販売にも柔軟に対応し全体的な売上増につながった。さらに、限定個数で恵方巻を企画したり新商品販売にも取り組んだ。また、ボイラー入替工事など設備拡充を行った。

- 4 クリーニング班 （作業科目） 法人各施設・官公庁・企業他一般向け リネンや制服等

設備拡充及び経費削減対策として、重油からガス仕様のボイラーへ入替工事を行った。また、部署間の連携力を強化、業務効率化を図りながら顧客ニーズに対して柔軟な対応を行い、満足度と信頼性の向上に努めた。

5 主な年間契約先

作業班	主な作業内容	納品・作業場所	委託先
園芸班	花壇管理（年間）	八ツ並公園他 7 ヶ所	鳥栖市
	花壇管理（年間）	どんぐり村園内	どんぐり村
	花壇管理（年間）	環境課へ納品（200 ケース）	吉野ヶ里町
	花壇管理（年間）	筑紫野市カミーリア	筑紫野市
	花壇管理	フレスポ鳥栖アーケード横	まちスポ鳥栖
	除草作業	フレスポ鳥栖内調整池	大和リース
就労移行班	清掃業務	中央公園他 15 ヶ所	鳥栖市
椎茸業務班	清掃業務	児童発達支援センター	若楠療育園
	パック圧縮	ハートコープさが倉庫内	ハートコープさが
クリーニング班	制服・リネン	若楠療育園	若楠療育園
	制服・リネン	若木園	若木園
	作業服他	コカ・コーラ鳥栖工場	コカ・コーラ

6 作業班別売上実績

作 業 班	売 上 額
園 芸	20,819,011 円
加 工	6,330,708 円
クリーニング	27,671,470 円
業務受託 菌床椎茸	4,876,842 円
業務受託 就労移行	4,945,082 円
共 通	105,608 円
合 計	64,748,721 円

7 工賃支給実績

就労移行支援			就労継続支援 B 型		
月	支給人数 (人)	支給額 (円)	月	支給人数 (人)	支給額 (円)
4	8	222,716	4	50	980,102
5	8	223,278	5	51	979,777
6	8	456,851	6	52	1,939,555
7	8	212,583	7	52	885,980
8	12	251,014	8	50	923,194
9	8	376,407	9	51	977,772
10	8	220,410	10	53	1,035,200
11	9	435,726	11	54	1,880,240
12	9	230,832	12	52	1,008,418
1	8	193,226	1	51	893,733
2	10	209,544	2	52	822,800
3	10	713,651	3	54	3,424,171
合計	106	3,746,238	合計	622	15,750,942

就 労 移 行 支 援 事 業 平均工賃 35,342 円

就労継続支援 B 型事業 平均工賃 25,323 円

合 計 平 均 工 賃 26,782 円

Ⅳ 地域社会との交流

1 就労移行アセスメント

利 用 者	市 町 村	期 間
21 歳・男性	福岡市西区	4 月 6 日（1 日間）
35 歳・女性	基山町	4 月 11 日（1 日間）
18 歳・男性	みやき町	8 月 3 日～8 月 5 日（3 日間）
18 歳・女性	みやき町	8 月 17 日～8 月 19 日（3 日間）
18 歳・女性	みやき町	8 月 24 日～8 月 26 日（3 日間）
19 歳・男性	鳥栖市	9 月 8 日～9 月 9 日（2 日間）
21 歳・男性	吉野ヶ里町	10 月 1 日（1 日間）
29 歳・女性	鳥栖市	10 月 5 日～10 月 7 日（3 日間）
23 歳・女性	鳥栖市	11 月 4 日～11 月 6 日（3 日間）
18 歳・男性	吉野ヶ里町	12 月 7 日～12 月 9 日（3 日間）
18 歳・男性	基山町	12 月 14 日～12 月 16 日（3 日間）
18 歳・男性	吉野ヶ里町	2 月 8 日～2 月 10 日（3 日間）
18 歳・男性	吉野ヶ里町	2 月 19 日（1 日間）
47 歳・男性	佐賀市	3 月 8 日～3 月 10 日（3 日間）
43 歳・女性	佐賀市	3 月 15 日～3 月 17 日（3 日間）

2 実習生

（1）特別支援学校

学校名	期 間	実 習 生
中原特別支援学校	6 月 22 日～7 月 3 日	高等部 2 年生・男子 2 名
中原特別支援田代分校	11 月 24 日～11 月 27 日	高等部 3 年生・男子 2 名

（2）その他

機関・団体名	期 間	実習内容・人数
西九州大学	2 月 8 日～13 日	介護等体験・1 名
佐賀女子短期大学	3 月 8 日～12 日	介護等体験・1 名

3 ボランティア

名 称	主な活動内容	人 数
作業ボランティア	園芸及び椎茸班の作業	1 名

4 交流活動

- (1) 梅まつり (2月28日)
- (2) ほんげんぎょう (1月9日)
- (3) グリーン教室 (各地区まちづくり推進センター・近隣小中学校 等)
- (4) わんぱく自然体験教室 (8月29日・10月18日 全2回)

5 見学者

機関・団体名	期 日	人 数
九州国際高等学園 (職場見学)	10月8日	3名
鳥栖経営研究会 (鳥栖商工会議所)	10月15日	10名
中原特別支援学校高等部 (職場見学)	11月10日	32名

V 総 務

1 職員状況

職 種	施設長	事務員	調理員	サービス管理責任者	就労移行			就労継続B型			定着	合 計
					生活支援員	職業指導員	就労支援員	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員	就労定着支援員	
01年度末	1	1	※4	1	1	※2	1	1	10 ※8	1	※1	17 ※15
02年度末	1	1	※4	1	1	※2	1	1	10 ※10	1	※1	17 ※17

※は短時間職員

2 職員研修

(1) 園内研修

研 修 名	場 所	期 日	参加職員
もしもしネット・GF 山浦合同勉強会	多目的ホール	毎月 1 回	就労移行・定着
「生活支援の視点」 金納課長代理・松鶴氏（若楠療育園）	多目的ホール	8 月 22 日	全職員対象
「精神障がいへの理解」 松本 和彦 氏（ハートケア鳥栖）	多目的ホール	8 月 28 日	就労移行・定着
「より良い支援のために」 橋本 久美 氏 （佐賀障害者職業センター）	多目的ホール	11 月 20 日	就労移行・定着
「本校の職業コースの現状」 中溝 一浩 氏（中原特別支援学校）	多目的ホール	2 月 19 日	就労移行・定着
「障害者雇用における企業の視点」 守田 豊 氏（旭食品 九州支社）	多目的ホール	3 月 19 日	就労移行・定着

(2) 外部研修

研 修 名	場 所	期 日	参加職員
福祉サービス事業所見学	プロップ佐賀 （移行・A 型）	6 月 30 日	高崎 知洋 田口 揚児
防災クロスロード	フレスポ鳥栖 市民活動ネットワーク	7 月 4 日	田口 揚児 （他利用者 3 名）
佐賀県災害派遣福祉チーム DCAT 基礎研修	佐賀市文化会館	8 月 3 日	田口 揚児
就労支援ネットワーク会議 「愛着障害の理解と支援」	サンメッセ鳥栖	8 月 9 日	田口 揚児
サービス管理責任者更新研修	グリーンファーム山浦 ※リモート研修	8 月 11 日	鈴木 一也
佐賀県相談支援従事者初任者研修	アバンセ	8 月 20 日 ～ 8 月 21 日	田口 揚児
食品衛生責任者講習会	鳥栖市民文化会館	10 月 14 日	渡辺 健 清水 渚
障害者差別解消支援研修会	鳥栖市民文化会館	11 月 13 日	有馬 守弥

「親離れ、子離れについて」			本山 久美子
事業所間相互現場実習	NPO わかば	11 月 18 日	中島 真美
サービス管理責任者更新研修	佐賀県社会福祉士会	12 月 10 日	松尾 太敬 西久保 誠
HACCP 導入支援研修会	鳥栖総合庁舎	2 月 25 日	渡辺 健
サービス管理責任者更新研修	グリーンファーム山浦 ※リモート研修	3 月 19 日	家永 安幾

3 防災管理

10月に防災意識を高める園内行事を企画した。鳥栖消防署へ職員派遣を依頼し消火器を使った訓練やAED講習会を実施した。非常防災食を提供し、利用者並びに職員の防災意識向上を図った。また、3月には地震を想定した避難訓練を行った。

7月に緊急連絡網に基づいた伝達訓練、10月に火災、3月に地震を想定した避難訓練をそれぞれ実施し、防火管理者を中心に様々な状況を想定し、利用者並びに職員の防災意識の向上を図った。

4 施設設備及び環境の整備状況

- ・車両入替4台（送迎車・事務・加工・椎茸）
- ・農産加工場ボイラー入替
- ・クリーニング棟ボイラー入替及びガス導入工事
- ・事務室及び多目的ホールエアコン入替
- ・クリーニング棟排水工事
- ・クリーニング棟ミシン室エアコン設置

5 寄付

ご 芳 名
・みつばの会 様
・佐賀県共同募金会 様